

◆戸別収集モデル地区説明会

平成 24 年 6 月 23 日（土）午後 2 時から午後 3 時

小坂小学校 参加者 72 名

- 1 環境部次長から挨拶
- 2 資源循環課担当課長から戸別収集モデル事業実施の背景等について説明
- 3 平成 24 年 10 月 1 日からのモデル事業の説明  
～DVD 放映～  
～リーフレット説明～
- 4 質疑

**Q** 作業時間や人員が増えることになるがどの程度を試算しているのか。また、燃やすごみに資源物が混入しているなど、分別がなされていない場合の対応はどのようにするのか。燃やすごみは午前中収集ということだがうまくいくのか。

A 試算では、クリーンステーション収集を民間委託した場合は約 3 億、戸別収集を民間委託した場合は約 7 億 7 千円かかるとしている。これに有料化の手数料収入等の手数料収入等を見込んで、収支約 2 億の持ち出しとなると推計している。

燃やすごみの午前中収集ができるかどうかを今回のモデル事業で検証していく。

分別がなされていない場合については、収集作業員がチャイムを押して個別に分別についてお願いをしていくが、不在の場合については現行どおりダメシールを貼って置いていく事を予定している。

**Q** モデル事業の評価はどのように考えているのか。モデル事業の期間の設定や取り止めといった判断プロセスはどのようにになっているのか。

A 今年の 10 月 1 日からモデル事業をスタートさせ、来年 10 月から全市を予定している。その間、中断することは想定していない。

評価については、午前中収集ができる体制の構築、車両台数の確定等を予定しており、また、モデル地区内の市民の方へのアンケートの実施も予定している。

**Q** リーフレット 2 ページのごみを出す場所についてだが、家屋が道路から奥まって私有地につながっている場合の例があるが、私の家の付近はその周辺に 5～6 件あるが、それでもこのイラストに示された場所に出すのか。

A 一律にはお答えできないので、個別に相談させてもらいたい。

**Q** 藤沢市が有料化になっているとのことだが、具体的な金額を教えてください。

A 1L 当たり 2 円。40L 袋で 80 円、20L 袋で 40 円になっている。

**Q** 評価のプロセスについてだが、大きな変化になるので不安も大きいといったところなので、来年の全市実施になる前に、このような説明会を実施してもらいたい。

鎌倉市と藤沢市とでは、地域性等も異なるところもあると思うので、やってみて

どうだったのか、といった評価の会を設定してもらいたい。これは要望である。

A ご指摘の点も踏まえ、広報等も活用しながら、評価については公表していく。

Q 有料化は指定袋を買うということだが、シール制はどうなのか。

A 現在、開催している審議会の中で最終的な結論はでていないが指定袋方式ということで議論が進んでいる。

シール制の導入は少数の自治体では実施しているが、シールの判別が難しいなどの問題がある。取扱いの簡便さから指定袋方式をとっている自治体が多数だが、最終的な結論はこれからになる。

Q 谷戸が多く、車が入ることができない場所でも取りに来てくれるのか。また、燃やすごみの曜日が異なる地域の人が、通勤途上等にあるCSに捨てていくことがあるが、戸別収集になって自宅前に置かれたらなおさら困る。市はどのようにとらえているのか。

A パッカー車が入れない場所については軽ダンプ車を活用したり、階段状になっているところは作業員が歩いて収集する。

不法投棄については、いつでもごみを出すことができるCS方式から戸別収集になることで、出しにくくなるといった抑制効果も期待できる。それでも、通行人が家の前に不法投棄していくといったことであれば、抜本的な解決策にはならないかもしれないが、パトロールを行うなど人海戦術による対応をしていく。

Q 戸別収集のモデル地区の住民にカラス対策等のかごを自分たちで購入することになるということだが、どのように周知していくのか。

戸別収集・有料化を実施することで収支差引2億の持ち出しということだが、そこまでしてやる理由がみえてこない。

A カラス対策については、参考になる事例等は紹介していく。一般的にはロック式の収納ボックスが多いようだが、個々の事情にもよるのでこれを購入してくださいという周知は難しい。

市の焼却施設が既に限界にきているということがあげられる。燃やさない方法として戸別収集・有料化という施策があり、燃やすごみを減らし、焼却施設の負担を減らしていく。また、そのためには、相応な費用負担だと理解している。

Q カラス対策については、切実な問題なので是非、検討したほうがいい。

A 防御策等について検討していく。

Q 戸別収集について一部応じない町内会もあると聞いている。

今回のモデル地区は難しい場所だと思うが、なぜ、平坦な場所ではなくあえて困難な地区を選んだのか。

A 戸別収集に応じただけでない町内会があるとすれば、市としてはご協力をお願いしていきたい。

ごみを減らすために戸別収集を実施する。誰が排出したのかわかること、違法ご

みを防ぐことができ、資源化が進む。そのため、戸別収集・有料化を合わせて実施することでごみを減らしていくといった説明をしていくが、それでも実施したくない、ということであれば個々単位で対応していきたい。

藤沢市でも当初、戸別収集を実施しないといった町内会等があったが、一雨降るごとに戸別収集になっていったとも聞いている。

今回のモデル地区は、山ノ内地区は谷戸地形だが、七里ガ浜地区は住宅地である。全市実施をしていくにあたり、収集困難な地区を避けて通ることはできない。職員がシミュレーションをしながら、モデル地区の収集エリアを設定した。

**Q** 全市で実施していくと色別の袋で出すことになると思うが、ボランティアごみはどのように出せばいいのか。

また、今回配布された説明会資料には、平成 27 年度には生ごみ処理機の普及台数を 9,000 台強まで増やしていくとなっているが、昨年の生ごみ処理機の普及台数はいくつなのか。

**A** 戸別収集品目は 3 品目を予定しているが、燃やすごみ、燃えないごみの 2 品目について指定袋を予定している。今後、審議会の中でボランティアごみ等減免品目について検討をしていく。早めに周知をしていくようにしていきたい。

生ごみ処理機の昨年度の助成台数は 568 台となっており、それにモニター制度による 60 台、合わせて 628 台となっている。

<問い合わせ>・・・説明会終了後に「問い合わせ」に記載された意見等

- ・モデル事業であるのですから、カラス除け対策のバケツ等は市が配布すべきでないでしょうか。他 1 件。

- ・モデル地区の期間終了後もカレンダーは変更ないのでしょうか。

例えば、火曜日は容器包装プラスチックと植木剪定材ですが、植木剪定材についても戸別収集にはできないのでしょうか。火曜日のごみを出す労力は同じです。高齢者のことを考えたら一緒にすべきです。

- ・有料化の指定袋のサイズは何種類くらいを想定しているのですか。2 人家族だと燃やすごみは 1～5 L、容器包装プラスチックは 40～60 L が現状です。

- ・生ごみ処理機の堆肥はどう処分・回収されるのですか。少しなら庭に撒けますが毎日発生すると困ると思います。

- ・事業所のごみの進捗状況と集合住宅などの大型生ごみ処理機の設置の進捗状況などの程度ごみの減量がすすんでいるのかということを広報などで周知してください。1 年後という単位ではなく、中間報告を出していただきたいです。

- ・説明会の時間が短すぎる。モデル事業に協力する気になれない。実施ありきの考え方は問題です。モデル事業なのだから、期を明確にして、客観的に判断できる結果評価を公開してほしい。

